

アカデミア人材の評価についての検討状況について

2025年11月5日

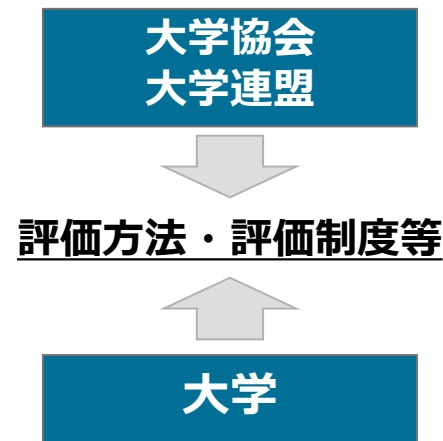
イノベーション・環境局 基準認証政策課

アカデミア人材の標準化活動の評価に向けた取組状況

- アカデミア人材は、その学識と中立な立場から日本型標準加速化モデルにおける**基盤的活動及び戦略的活動の双方を支えている**。他方、必ずしも**標準化活動の優先順位は高くなく**、大学における採用、人事評価、昇任等における取扱いにおいては、標準化活動が明示的に評価対象となっているとは言い難い。
- アカデミア人材の評価対象としての標準化活動の位置づけの向上・明確化を推進していくこと、加えて、標準化活動を客観的かつ適切に評価するため、**活動への参画状況や貢献度合いが適切な場において明文化された形で残されるようにすることが課題**。
- **アカデミア人材の標準化活動の評価制度等への取込のための働きかけ、及び標準化活動を可視化する環境の整備**を行った。

大学関係団体・個別大学への働きかけ

- ・大学協会、大学連盟から会員大学へ、標準化活動に関わる教員の貢献が適切な形で可視化、評価される仕組み作りを検討いただきたい旨の周知を依頼。
- ・標準化活動への参画等をアカデミア人材の評価や採用に係る書面等に記載いただくため、個別大学への働きかけも実施。
- ・このようにトップダウン・ボトムアップの双方向からアプローチし、標準化活動の評価を慫慂。



researchmapへの標準化活動経験の記載様式の整理

- ・文科省・JSTへの働きかけにより、JSTのデータベース型研究者総覧「researchmap」へ標準化活動を登録する方法をFAQ、マニュアルに掲載。
- ・アカデミア人材が自身の標準化活動への参画状況を示すことができる。

researchmapへの標準化活動経験の記載について

- 研究者が業績を管理・発信できるようにすることを目的とした、JSTのデータベース型研究者総覧「researchmap」において、文科省・JSTへの働きかけにより、8月25日に経歴として標準化活動を登録する方法を掲載。
- 標準化活動に取り組むアカデミア人材の貢献を可視化するプラットフォームを整備し、国内審議団体等に周知。来年度科研費説明会にてresearchmap説明時に紹介予定。

researchmapサイトFAQ

② 標準化や国際規格開発に関する活動はどのように登録すればよいですか。

- ISO/IEC/ITU,JIS等の委員としての活動は「委員歴」内に登録可能。
例) 団体名: ISO (TC○/SC○) 『(TC/SC名)』
委員名: 国際委員会 コンビナー
区分: その他
- 委員会以外での標準規格策定の参画実績は「学術貢献活動」に登録可能。
例) 役割: 審査・評価
活動種別: 審査・学術的助言
- 標準化人材情報Directory「STANDirectory」に登録している場合、個人ページのリンクを外部リンクやプロフィール欄に登録可能。

researchmapサイトFAQ
(https://researchmap.jp/faqs/faq_questions/view/531302/5833e053fd63635d55a09f99694a2c58?frame_id=1051658)

Researchmap利用者マニュアル

● 学術貢献活動

社会的に貢献した業績を登録します。
成果物を添付資料としてアップロードできます。(パスワード設定可能)
また、標準化活動についてもこちらに記載可能です。

◆ 役割

企画立案・運営等	パネル司会・セッションチェア等	監修	審査・評価	学術
調査立案・実施	査読	保存・修復	その他	

◆ 活動種別

学会・研究会等	大会・シンポジウム等	展覧会	審査・学術的助言	学術調査
査読等	文化財保護	その他		

researchmap利用者マニュアル <https://guide.researchmap.jp/index.php/Researchmap利用者マニュアル/研究者用/登録、更新/業績/各業績に登録する内容#●学術貢献活動>

(参考) アカデミア人材の標準化活動の評価制度等への取込

- アカデミア人材の貢献を可視化するとともに標準化活動に従事するインセンティブを強化するため、大学等において標準化活動を業績の項目とすることを奨励。
- 早稲田大学理工学術院では、教員応募書類様式に標準化活動実績がある場合の記載例を提示するとともに、教員採用公募要領（雛形）にも国際標準化活動の実績の根拠となる書類の提出を求めることを検討してほしい旨の注釈。
- なお、産業技術総合研究所では、長期間継続した取組が必要となる標準化活動を論文や特許と同様に評価するため、規格発行時のみならず規格開発の途中経過やその役割等について、研究成果等の一部として登録できるようにしているほか、評価者に対して標準化活動において評価されるべき能力の内容を例示する等の見える化を推進。

(事例) 早稲田大学理工学術院の教員応募書類様式

● 国内外標準化活動の実績がある場合の記載例

(略)

【海外機関との共同研究等の実績、その他研究活動上特記すべき事項】

- ・ △△△△に関する研究について〇〇新聞にて特集記事記載（2013年＊月＊日）
- ・ ISO/IEC/ITU,JIS等の〇〇委員、〇〇委員長（2015年＊月～2024年＊月）
- ・ ISO/IEC/ITU,JIS等の〇〇委員、〇〇委員長としての「△△△△」の国際標準取得（2015年＊月～2015年＊月）
- ・ . . .

(参考) 産業技術総合研究所の取り組み

● 標準化活動に関する研究成果等への登録

研究成果発表データベースにおいて、国内外の標準化活動を登録可能とし、例えば、国際規格については発行時だけでなく、NP（新規提案）、DIS（国際規格案）等の途中段階の年月日や、当該規格に対するプロジェクトリーダー、コンビナー等の役割が登録可能。

● 標準化活動において評価されるべき研究者としての能力の内容例
例えば、「研究テーマの計画・立案」同様、「標準化の計画・立案」を、「論文執筆」同様、「標準化の文書作成」を例示。

(参考) JIS規格文書への学術論文の記載について

- JIS規格文書には、参考文献として学術論文を記載することが可能。
JISの様式を定めるJIS Z8301に、参考文献の表記方法について原則及び規則が記載されている。
- 査読付きの学術論文を参考文献として記載することで、規格自体の信頼性や権威が向上し、規格の活用・普及に有用。
実際にISOでは、Bibliographyとして学術論文が明示され、高く評価されている。
- JIS規格文書に参考学術論文を明記することで、アカデミア人材の標準化活動実績や規格文書への貢献を可視化し、業績として示すことができる。

<原則及び規則> (JIS Z8301 参照)

- 最終ページ（附属書がある場合は最後の附属書）の下の方または次のページに横線で区切り、“参考文献”の見出しを付けて記載。
※ただし、JISと対応国際規格との対比表の附属書がある場合は、その附属書の前のページに記載。
- オンラインで利用できる参考文献は、その出典を特定し、検索に十分な情報を記載。

<学術論文が記載された規格の例>

- JIS B1052-2（締結用部品－炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第2部：強度区分を規定したナット）29ページ
- JIS T0993-7（医療機器の生物学的評価－第7部：エチレンオキサイド滅菌残留物）72～83ページ